

令和4年度第2回徳山高等学校学校運営協議会〔本校全日制部会〕 記録

I 日 時 令和4年12月1日(木) 午後3時から午後5時まで

II 場 所 徳山高等学校会議室

III 出席者

○学校運営協議会委員

本校全日制委員4名 校長 副校長

○学校関係者

本校全日制教頭、分掌課長(教務・総務・生徒・進路)4名、生徒(生徒会執行部役員)5名
CS活動推進員

○その他

統括的なCS活動推進員

IV 会議概要

1 取組実施状況の報告・意見交換

(1) 学校現況について(教頭説明)

・全日制の学校行事、生徒指導、SSH事業、部活動等の取組や成果について説明。

(2) 地域連携の取組状況について(副校長説明)

・地域連携による行事等がオンラインだけでなく、対面での講演や県外研修の実施機会が回復してきている点が昨年度と大きく異なる。

(3) 学校評価について(副校長説明)

・第3回学校運営協議会での評価について依頼。

(4) 質疑応答

委員：学校開放の際に授業参観したが、黒板に映像を投影して授業をしていた。1人1台タブレットの使用についても先ほどの学校現況説明の中で少し様子が分かった。デジタル化が進んでいると感じた。

委員：たとえば、国語であれば教科書を映して、生徒も手元に同じもの置いて、書き込みをしたりタブレットを使って入力したりといったこと等もできているか。

学校：そうした使い方はしている。ただし黒板の高さがないので、教科書そのものを映すと字がすごく小さくなってしまう。そのため、教科書データを加工して投影するなどしている。

委員：先生の板書する手間が省かれている。数学などでも式等が書いてあるところに赤で囲ってあったりして、わかりやすく授業されていると思った。

委員：教室の真ん中に立ててあるタブレットは何に使っているのか。

学校：中継用の端末で、コロナ等で欠席をしている生徒にオンライン配信をしている。

2 スクール・ミッションについて

(1) 修正案について(副校長説明)

・第1回学校運営協議会の意見をもとにした修正案について説明。

(2) 質疑応答

委員：あらためて確認するが、県がそれぞれの高校に合わせたスクール・ミッションを作成する

ということか。

学校：そうである。スクール・ミッションは、最終的には設置者である県が決めるものだが、今年4月に県教委が示した案について各高校の学校運営協議会等で議論して、県教委に意見を提出する流れになる。

委員：スクール・ミッションはどのような場面で使われるものなのか。また、生徒や保護者はどのような場で目にするのか。

学校：学校広報活動やホームページ、中学生への説明の場面等で示していくものだと考えている。

委員：やはり文章では分かりにくいと思う。県教委は「「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の設定に向けて」の中で「生徒・学校外の関係者にわかりやすく提示」等3つの視点を挙げているが、それが備わっていないのではないか。もっと簡潔に。徳高生の素晴らしさを、徳高に入りたい人等に向けてもっと夢があるような言葉にするべき。

委員：大学で6年前にアドミッション・ポリシーを制定した際、各学部ごとに求めたい人材とどのような教育をするのかまとめた。徳山高校がどのような学校でどのような人材を求めているのかを、わかりやすく中学生や高校生に示すという観点で考えたらいいのではないか。

委員：スクール・ミッションというのはあくまで県が「徳山高校はこういう目的で設置していますよ」ということを示すもので、それに基づいて徳山高校の校長先生が徳山高校の運営方針を決めていくのがスクール・ポリシーとなる。おそらく県教委が県内の県立学校の設置目的やミッションに優劣も付けられないし、バランスもあるだろうから、ミッションはここでこれ以上議論しても大きくは動かないものだろう。先ほどから言われている、わかりやすさや徳山高校の特色はスクール・ポリシーの方で打ち出していけばいいと思う。

VI 熟議 〈徳山高校に期待すること 徳高生に期待すること〉

(1) テーマ説明

・あなたが思う徳高生のイメージ、今の実際の徳高生はどうか？という観点から徳山高校に期待すること、徳高生に期待することについて協議

(2) グループ別協議

・学校運営協議会委員、生徒を2グループ（5名と4名）に分け協議を実施。それぞれ教員1名がファシリテーターとして参加。

(3) 共有発表（各グループとも発表は生徒）

【Aグループ】

徳高生について考えたときに重要なのは「意識の高さ」ということがある。勉強、部活等すべてにおいて高い意識をもって臨んでいる。そうしたことがあって、周囲から徳高生への期待や憧れがある。

しかし、期待や憧れがあるとはいっても、意識の低い部分・課題となるところも多いので、これからの徳高を考えていくうえで、そういったところは改めていかなければならない。

【Bグループ】

徳高生のイメージといえば「真面目。優秀。目標をきちんと持って努力している」といったもの。一方、身近な目標としてテストでいい点を取ることは大切だが、テストの点数そのものが自己目的化しているような面もある。

周囲にも気を配ること、伝統を重んじること、時間配分や計画性、確かな人間関係を築くことなど、テストの勉強だけでなくこういった他の面もしっかり身につけることで、将来期待されるグローバルな人材となることができるのではないか。

